

ここに、「門脈圧亢進症に対する診療」と題した特集をお届けする。臨牀消化器内科で門脈圧亢進症を取り上げるのは2012年1月以来、約10年ぶりである。当時の特集「門脈圧亢進症の治療 update」と読み比べていただければ、この期間に門脈圧亢進症に対する診療の長足の進歩を実感していただけるものと思われる。いずれの論文も読み応えのある秀逸なものばかりであり、ご多忙のなか執筆くださった各先生方に、この場を借りて心より感謝、御礼申し上げます。

名古屋大学、東京大学と小生が所属してきた消化器内科学教室は、基本、消化管、胆膵、肝臓という臓器別のグループ単位で診療・研究・教育が行われている。では門脈圧亢進症はこのグループが診療し、研究を推し進め、後進の指導をするのか？名古屋大学では肝臓グループが肝硬変から静脈瘤までを一手に引き受けているのでわかりやすい。東京大学では静脈瘤は消化管グループが、それ以外はおもに肝臓グループが対応している。

ICD10 までは、門脈圧亢進症(K76.6)は消化器系の疾患(肝疾患)のなかに、食道静脈瘤(I85)、胃静脈瘤(I86.4)などの静脈瘤はいずれも循環器系の疾患(静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの)のなかに分類されていたが、2018年6月に約30年ぶりに改訂されたICD11では、静脈瘤も消化器系の疾患のなかに分類されるようになった。国際的にも門脈圧亢進症およびその関連疾患は、一貫して消化器系の疾患としてわれわれ消化器専門医が扱うことへのコンセンサスが得られたといえる〔肺高血圧症(循環器系の疾患に分類)などの一部の例外を除く〕。

現在、内科系の消化器サブスペシャリティ専門医制度においては、2階部分としての消化器領域専門医、いわゆる2.5階部分としての消化器内視鏡領域専門医、肝臓領域専門医が来年度からの機構認定専門医制度を開始すべく佳境に入っている段階である。門脈圧亢進症に関しては、臓器横断的に病態を理解・解明し、診断・治療法の開発を行っていく必要があることから、本分野の発展のためには、門脈圧亢進症学会は言うに及ばず、専門医制度を有し次世代を育成する任を負っている消化器病学会の果たすべき役割が大きいものと思われる。専門医制度の刷新が従来の殻を破るきっかけともなり、本邦から本分野における新たな知見が生み出され続けることを期待したい。

(藤城 光弘)

臨牀 消化器内科® Vol. 36 No. 12

©2021 年 10 月 20 日発行

定価 3,300 円

(本体 3,000 円 + 税 10%)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2021, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ **JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■ 広告申込所 / 日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8 電話 03-5226-2791